【伊藤総領事メッセージ ２０２０年８月】

離任の御挨拶

この度、２年１０か月にわたる在トロント総領事としての任務を終え、日本に帰国することとなりました。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまうもので、もうこのポストを離れなくてはならないことが信じられません。

振り返ってみますと、私のトロント総領事としての勤務は数々の幸運が重なり、大変充実したものとなりました。

第一の幸運は、トロントがＧ７の一員でもあるカナダという先進国の経済・文化の中心都市であり、北米で最も成長著しい活気溢れる街であり、そのような国際的な都市を拠点として外交活動を行うことができたことです。オンタリオ州の経済規模はスイス一国とほぼ同じであり、また１，４７０万人という人口も欧州のほとんどの国を上回る規模です。トロントには約１２０か国からの総領事・名誉領事が駐在し、世界でも有数の領事団を形成していることからも、いかにトロントが国際的に注目され重視されているかがわかります。トロント国際映画祭やハイテク産業の国際会議「コリジョン」等、大型国際会議・イベントも多く、様々な情報が集まり、人脈を広げ、学ぶことの多い街で充実した日々を送ることができました。

私にとってカナダ勤務は２回目であり、外務省による２年間の在外研修を行った国でもあり、夫の出身国でもあることから、任地事情についてかなりの理解を持って着任できたことも幸運でした。カナダの連邦制、多民族社会、カナダと米国との関係、カナダ人の価値観、日系人の歴史など、日本からは分かりにくい

諸要素も承知していたことは、当地での職務を遂行する上で非常に役立ったことを実感しています。

さらに、３年弱の任期の中で様々な歴史的な節目に立ち会い、それらに関連する仕事をできたことも大変運が良かったと思います。着任２日後に行われた、戦後日本人のカナダ移住５０周年記念レセプションを皮切りに、日加修好９０周年、ハイパークへの桜寄贈６０周年、平成から令和への御代替わり、ＣＰＴＰＰの発効、私の生まれ故郷である北海道名寄市とオンタリオ州リンゼイとの姉妹都市提携５０周年など、枚挙にいとまはありません。トロント・ラプターズのＮＢＡ優勝と、その後のラプターズ・ジャパンデー開催、日本でのラグビーW杯開催に関連しトロントで開催した諸行事、さらには東京オリンピック出場選手選考会を兼ねたトロント・マラソンでのスターターや表彰式への参加等、スポーツ関連でも通常では行われない行事に参加できたことも素晴らしい思い出です。

本来であれば、この夏に東京オリンピックの開幕を祝い、日系文化会館（ＪＣＣＣ）に設置された特設応援会場兼日本文化発信拠点「ジャパン・ビレッジ」から皆様と一緒に声援を送ってから任期を終えたかったのですが、新型コロナウイルスの世界的な大流行のために東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が１年延期となり、この夢は後任者に託することとなりました。新型コロナウイルスの感染拡大とその対応も、前例のない大きな問題であり、日々緊張感を持ちながらの対応となりました。これは決して嬉しい経験ではありませんが、在外公館が在留邦人のために行うべき任務につき、改めて認識を高めることになりました。

トロントに多くの日本企業や日系人、ＪＥＴプログラムの経験者、そして国際交流基金（ＪＦ）、ＪＥＴＲＯ、日本政府観光局（ＪＮＴＯ）など、日本との関係を強化していく上で協力できるパートナーが数多く存在していたことも大変幸運でした。トロント日本商工会の理事の方々には、本業のビジネスで御多忙にもかかわらず、オンタリオ州政府や地元の連邦議員の方々に対し、日系企業としての要望をはじめ率直な意見表明を行っていただきましたし、商工会のチャリティーイベントを通じて集められた寄付金により、地元への貢献も行われています。カナダ日本レストラン協会（Ｊ

ＲＡＣ）の皆様には、「和食まつり」や当館主催の天皇誕生日祝賀レセプションにおける和食の振興に貢献いただきました。オンタリオ日本酒協会（ＳＩＯ）の皆様には、オンタリオ酒類専売公社（ＬＣＢＯ）との対話や日本酒振興の様々なイベントに御協力いただきました。日本から移住して起業された方々による「新企会」には、オンタリオ州日本語弁論大会への御支援をいただき、トロントと姉妹都市提携を結んでいる神奈川県相模原市の協力のもと成績優秀者を日本に招待することで、日本語を学ぶカナダの若者たちの夢をかなえていただきました。

トロント大学マンク国際問題研究所に２０１７年に設立された日本研究センターの揺籃期に当館としても協力し、様々なセミナーやシンポジウムを通じて日加間の知的交流にも役立てたのではないかと思います。また、ＪＥＴプログラムや文部科学省国費留学生の経験者の方々、トロント地域在留邦人と日系人の若手プロフェッショナル交流団体「ＭＵＳＵＢＵ」の皆様には、今後ともカナダと日本との間の草の根レベルでの対日関心の向上と交流の強化に御尽力いただきたいと思います。

トロントのみではなく、オンタリオ州内各地に日本との交流を長年続けている市町村・自治体レベルの団体がいくつもあることには感銘を受けました。日加修好９０周年レセプションを主催し、私や日系企業を招待してくれたミシサガ市、日本とカナダの風景を取り入れた「板橋ガーデン」を開園したバーリントン市、中学・高校生の交流を毎年行ってきているバリー市など、これからもこのような交流を続けていただきたいと願っています。

そして、トロントのＪＣＣＣには大変お世話になりました。ＪＣＣＣでは、日系カナダ人、日本人、そして日本が好きな日系以外のあらゆる人々により、日本文化を推進する様々な活動が行われ、何度となく足を運びました。お正月会、春祭り、夏祭り、トロント日本映画祭、生け花展、剣道大会、書道カナダ展、墨絵展等、思い出は尽きません。新型コロナウイルスのためにＪＣＣＣの今年の活動は様々な課題に直面していますが、これらを乗り越え、そのモットーである「文化を通じた友

情」に引き続き取り組んでくれることと信じています。

幸いに私が在トロント日本国総領事を務める女性の第一号であったことは、日本が女性の活用に取り組んでいることを示す上での「宣伝材料」として使うことができ、またカナダの女性ネットワークとの関係を築く上でも有益でした。王立オンタリオ博物館では、日本の女性をテーマに卓越した聴衆の前で講演する機会をいただきました。またアジア太平洋財団が日本に派遣した初めての女性ビジネス派遣団への同行、女性が女性の起業家を支援するSheEOサミットへの出席、女性が女性アスリートを支援するCan150でのスピーチなどにおいて私が日本の取組を紹介したことで、日本の女性と連帯感を持ってもらえたのではないかと思います。さらには、トロント近郊で働く日本人女性たちとの交流も、お互いが元気を与えあえる楽しい機会でした。

そして、私にとって最大の幸運は、当館館員が少人数ながら皆非常に優秀で、私の活動を支え続けてくれたことです。私が総領事館の「顔」として動き回れたのは、それを様々な角度から支えてくれる館員や現地職員がいたからこそであり、時にはかなりの負担や心労をかけたこともあったと思います。既にトロントから帰国・転勤した元館員を含め、改めて感謝の意を伝えたいと思います。

私の後任となる佐々山拓也新総領事は、直近には在カナダ日本国大使館で公使を務め、カナダについての知識と経験を十分に備えた上での着任となります。佐々山総領事の下でも日加関係及び日・オンタリオ関係がますます発展することを、また日加関係の強化のために様々な分野で尽力していただいている皆様の御健勝と御多幸を祈り、私の離任の御挨拶とさせていただきます。

さようなら、トロント。多くの感動をありがとうございました。